

委員会調査(研修)報告書

NO.

令和 6年 5月 21日

胎内市議会議長

小野 徳 重 様

(報告者) 厚生環境常任委員会
委員長 渡 辺 栄 六

厚生環境常任委員会行政視察研修 について、
議会会議規則第110条により、下記のとおり報告します。

調査・研修 日 時	自 令和 6年 5月 14日 至 令和 6年 5月 16日 2泊 3日 (3日間)	調査・研修 場 所	・神奈川県小田原市 ・静岡県藤枝市
調査・研修 事 項	① SDGs 普及啓発事業について (小田原市) ② “健康・予防日本一” ふじえだプロジェクトについて (藤枝市)		
調査・研修 出席者(参加者)	渡辺栄六 羽田野孝子 丸山孝博 渡辺宏行 薄田 智 坂上清一 渡辺 秀敏 八幡元弘		
相手方(対応者)	小田原市企画部未来創造・若者課課長 府川一彦 副課長 田邊周一 長崎真治 藤枝市議会議長 山根一 健康福祉部健やか推進局健康企画課課長 花澤澄子 健康増進課長 伊久美佳代		

調査の結果または概要

「神奈川県小田原市」は、人口 18 万人。令和元年に国の SDG s 未来都市・自治体 SDG s モデル事業に選定された。企業・団体等を「おだわら SDG s パートナー」として登録する制度を運用し、令和元年から毎年 6 回募集し 310 者を登録していた。SDG s パートナー交流会や、ワークショップ、9 月末の 1 週間 SDG s デイを開催していた。令和 3 年 4 月の機構改革で、企画部に未来創造・若者課を設置。7 月に多様な人が集い交流できる、イノベーションラボをオープンし、若手交流会等に活用している。

「静岡県藤枝市」は人口 14 万人。市の重点戦略は、健康・教育・環境・危機管理で、都市の健康は、そこに住む市民の健康が礎としていた。平成 25 年、健康寿命延伸都市協議会を発足。保健委員を自治会長・町内会長はあて職 250 人、各町内会 750 人の体制で自主的な取り組みが実施されていた。企業に働きかけ、健康講座に参加してもらったり、事業所・民間団体に補助金を出して健康づくり事業を推進していた。

調査の所見・感想

「神奈川県小田原市」は、企業等の“おだわら SDG s パートナー”が問題解決ワークショップを開催し、令和 5 年度は、リサイクル・子育て・ごみの分別・共生社会をテーマに活躍していた。また、SDG s パートナーが小中学生を対象に先生となって、入浴剤オリジナル定規、ミニ畳づくり等のイベントを実施していた。行政が、企業・団体と協力して目標達成に向け進めることが大事と感じた。

「静岡県藤枝市」は、“健康・予防 日本一のまち藤枝”づくりに、市民・事業者・行政が一体となって推進していた。自治会長を含めた 1000 人近くの保健委員体制、楽しく歩く運動習慣にはウォーキングイベント・健康アプリ「あるくら」を開発、野菜を食べて健康フェア、心身の健康増進にオトナ女子の朝活ヨガ・夜ヨガ、経営者・労務担当者・医師会と連携して健康実践講座を開催等、次から次へと新しい取り組みを進めていた。こちらも、企業・団体等の協力を得て成果を上げていた。いかに協力を得ていくかの力量が大切になると感じた。